

学部・講義：幼児教育（保育）の道を、自ら学び、考えながら進んでいけるための基礎知識を身につける

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

2. 受講学生

1回生：10名（教育学1名，幼年教育5名，
数学教育1名，美術教育1名，
家政教育2名）

3. 授業の工夫

- (1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。
- (2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

4. 授業評価の方法と結果

最終授業終了後にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入してもらった。

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
- 4：ややそう思う（よい）
- 3：どちらともいえない（ふつう）
- 2：あまりそう思わない（あまりよくない）
- 1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか 5.0
話し方は明確・聞き取りやすかったか 4.9
重要なことを強調したか 4.9
プリントに沿った授業は理解を助けたか 4.9

授業への熱意・工夫が感じられたか 5.0
内容・レベルは適切だったか 4.4
課題は有益なものだったか 4.6
考えが培われたり得るものがあったか 4.9
学問をする雰囲気は保たれていたか 5.0
教職に就くうえで有益だったか 4.7

5. 授業時間外学習の促進

以下の2つの課題は、本学着任時から現在まで18年間、「幼児教育学」の課題（授業時間外学習）として継続して課しているものである。

【課題1】4年間を見通した際、幼児教育の歴史を学ぶ機会が少ないので『児童中心主義の保育』（森上史朗著、教育出版、1984年、全7章、305頁）の各章の概要をまとめることを課し、学期末に提出させている。

【課題2】幼児教育に関する基礎的な用語や知識を習得させるため、毎授業時に4～7個の用語を指示し、次の授業時まで文献や辞書で調べた内容をレポート（1つの語句についてA4半枚程度）にまとめて提出させている。複数の辞書にあたること、辞書だけでなく概論書なども読み、その上で“自分の辞書”を作るつもりで、まとめるように指示している。

(1) 1週間あたりの自主学習時間

授業時間外学習の時間は、2～10時間/週であった（平均3.6時間）。

(2) 課題についての学生の感想・意見

以下、抜粋を掲載。

【『児童中心主義の保育』の要約について】

・日本の幼児教育の歴史は、そう簡単なものではなかったのだなと感じた。
・幼児教育の歴史や方法、多くの人の考えや努力を知り、理解が深まったとともに、もっ

と色々なことを知りたいと思った。

- ・保育の歴史的流れをつかむことができた。
- ・古い本（歴史）だったが、保育にあたって大事なことは今と同じことばかりだった。
- ・当時良いとされたものは、必ず否定されていくものだなと感じた。
- ・フレーベルや倉橋惣三についても理解できた。
- ・恩物やモンテッソーリについてなど詳しく知ることができてよかった。
- ・少し難しい言葉もあったけれど、内容はとても勉強になるものだった。
- ・読んでいくうちにおもしろく感じるようになった。
- ・授業で聞いた話も含まれていて復習にもなった。
- ・最初は内容が難しそうで読むことに抵抗があったが、読み始めると面白く、得られるものが多くあった。
- ・どこが重要なのかを考え、うまく要約しようと読んだので、読解力がついた。
- ・手にとることができない本だった上に、要約は読まないといけないので、必然的に読むことになり、おもしろい部分の発見ができた。
- ・最初思っていたよりも読みやすく面白かったが、(12月末から始めたので期限に追われ)辛いという気持ちの方が大きかった。

【用語調べについて】

- ・より多くの文献を読んで理解しようと、図書館へ行き調べたことで、毎週、何かの文献を読むという習慣ができた。
- ・複数の文献で調べると、それぞれ視点が異なっており、色々な角度から捉えることができた。
- ・聞いたことのある用語もたくさんあったが、調べてみると自分が思っていた意味とはまったく違っていたりしておもしろかった。
- ・自分の知らない用語を自分なりに調べることで、理解が深まった。
- ・正直なところ、課題にされない自分と自分で調べようという気はなかなか起こらなかったと思うが、用語調べをすることで、他の授業ともつなげられる部分もあって、楽しかった。
- ・自分で調べたことによって、より印象に残りやすかったのでよかった。
- ・調べることで知識を増やすことができた。今後も用語調べを継続し、知識を増やしたい。

【課題があったことについて】

- ・先生がおっしゃった「自分から能動的に勉強する」という言葉がずっと印象に残っている。高校生の時はもちろん大学に入ってからもぼーっと受け身の姿勢で講義を受けていたなど反省した。自分から調べる課題があることはとてもよかった。
- ・「自分でできる勉強は自分です」ということや、本で調べて学習するという習慣が少しは身についたと思う。本を使って学習するという経験ができてよかった。
- ・課題があったことで、どのように学習したらよいかがわかり、また一定の学習時間を確保することができた。今後も継続して自主学習を進めたい。
- ・課題で調べて得た知識について、授業の中でその知識に基づいてより理解を深めることができたのでよかった。
- ・課題がないと自分で学習しようという意欲が弱まってしまうので、課題があつて勉強する習慣ができた。
- ・すごく多くて大変だったが、自分のためだと考えてがんばった。用語調べは、保育の授業だけでなく他の教育学部の授業との関連性も見つけることができ、勉強になった。
- ・課題がなければほとんど勉強しなかったと思う。どの言葉、何の知識が大切なのかさえ知らなかったなので、知れてよかった。
- ・大変だったけれど、家庭での学習時間を確保できたのでよかった。
- ・多かったが、期間的にも内容的にもできないものではなかったし、やってよかった。
- ・他の授業に比べて課題は多かったが、その分、理解を深めることができた。

【課題以外の授業時間外学習について】

<課題が多かったため、課題以外の自主学習については、「しなかった」というより「できなかった」という表現で回答している学生が多かった>

- ・空いた時間に、用語調べのために購入した本を読んだり、教職の授業で活用したりした。
- ・保育の歴史や認定こども園について、自分なりに調べたり、まとめたりしてみた。
- ・他の授業と関連していると感じたことを調べたり、プリントを見返したりした。
- ・幼稚園教育要領を読んだ。